

令和4年度末 学校評価総括表

テーマ	学校の教育活動に関する目標 (A)	計画期間における具体的目標 (B)	令和4年度末の目標値等 (C)	令和4年度末の状況 (D)	自己評価 (E)	学校関係者評価 (F)	改善方策
1. こころと身体を子どもの成長に合わせてはくむ	体力の向上	スポーツテストの結果 (Tスコア) 2.0ポイント以上向上	スポーツテスト結果の全種目において全国平均値を上回り、2、3年生は前年度のTスコアを1.0以上アップさせる。	スポーツテスト結果の全種目において全国平均値を上回り、前年度のTスコアより1.6アップした。	今年度は目標を達成出来たので、来年度も目標を達成出来るように、体育の授業で取り組んでいきたい。	体育行事、部活動にも積極的に取り組んでいる成果が表れている。一層のスコアアップを目指し、取り組んでもらいたい。	スポーツテスト結果を詳細に分析し、体育授業において体力トレーニングを継続し、部活動への加入を一層促進する。
	望ましい健康管理意識の確立	学校で実施する全ての健診において、再検査・精密検査の受診率70%以上	学校で実施する全ての健診において、再検査・精密検査の受診率60%以上	年2回の受診勧告書発行、担任からの声かけなどで受診を促した。しかし現状は、昨年度と変わらず40%ほどであった。新型コロナウイルス感染症の影響で病院受診を控える傾向があり、感染が落ち着いてきた今その感覚が残っていると推察される。	来年度には新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられることになったので、より積極的な受診呼びかけを行い、保護者に対しても受診の重要性を説明することで、受診・治療率上昇につなげたい。	新型コロナウイルス感染症に対しては、今後も適切な対策を講じる必要があるが、再検査の受診や治療は、自己の健康維持にとって重要な事柄であるので、地道な受診・治療呼びかけの促進を継続してもらいたい。	保健や家庭科の授業、講演会等により、受診の重要性について啓発し、保護者に対しても文書等で受診を一層促し、担任等も受診状況を把握し、繰り返し呼びかける。
	望ましい食習慣の確立	バランスの良い食事を心がけ、朝食を摂取している生徒の割合が96%以上	バランスの良い食事を心がけ、朝食を摂取している生徒の割合が92%以上	アンケートの結果では、全体で88%の生徒が毎日あるいはほとんど毎日朝食を摂取していた。	10%以上の生徒が朝食を食べていないことは、かなり大きな課題である。様々な機会を通じて朝食の重要性を説くことはもちろん、朝食をとる時間が確保できる生活習慣の指導も必要であると考えられる。	生活習慣の確立には、幼児期からの啓発・取組も大きく関係していると思われるが、急に通学時間が長くなる1年生を、特に重点的に指導するのが効果的ではないか。	保健や家庭科の授業、講演会等により、朝食摂取の重要性について啓発するとともに、朝食摂取時間を確保できる生活習慣を確立するよう指導をすすめる。
2. 学ぶ力、考える力、探究する力をはくむ	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	授業アンケートにおいて、「授業に満足している」生徒が90%以上	授業アンケートにおいて、「授業に満足している」生徒が80%以上	授業アンケートにおいて、「授業に満足している」生徒が1学期86.2%、2学期85.0%という結果であった。	本年度の目標は達成することができたが、より一層の授業参加を促し、そのための方策を考えていきたい。来年度も授業公開週間を設け、教員間の活発な意見・情報交換を図ってきたい。	教科の枠を超えて教員が互いの授業を見学し、研修に努めていることは素晴らしい、アンケート結果の数字も目標を達成している。さらに、生徒のより能動的な授業参加を促進してもらいたい。	生徒が授業に能動的に参加し、活動することで、授業に対する満足度が高まるよう授業構成を工夫する。授業観察等を通じて授業の質を高めることで、生徒の理解度の向上を図る。
	学習意欲の向上	生徒の授業外での平均学習時間が2時間以上	生徒の授業外での平均学習時間が1時間30分以上	授業アンケートにおいて、授業外での平均学習時間が2時間以上の生徒が1年生12.4%、2年生13.2%、3年生51.4%という結果であった。	授業アンケートにおいて、授業外の平均学習時間が2時間以上の生徒が1年生19.8%、2年生26.7%、3年生14.4%という結果であった。学年が進行するにつれて学習意欲が高まる傾向があることから、学習意欲の向上に向けた新たな取組を模索したい。	受験を控えた3年生の学習意欲が高まるのは当然のことだと思うが、付け焼き刃の学習とらないためにも、1、2年時に学習習慣を確立することが重要であり、1、2年生での学習を促す方策の検討が必要である。また、学習の質を高めることも重要である。	学習意欲を高める課題を精選して与える。細かく具体的な目標を設定させ、学習に取り組むことによる達成感を感じられる指導に努める。
	ICTを活用した授業の推進	ICTを使用することで「学習内容理解が深まった」生徒が90%以上	ICTを使用することで理解が深まった生徒が70%以上	1年生へのアンケートにおいて、80.9%の生徒が、「授業への理解が深まった」と回答し、目標を上回った。	ICT機器の成果を出すためには、「機器の導入」と「機器活用力の向上」が必要である。ICT機器を利用した授業研修の機会を増やすなどして「活用力向上」を目指したい。	情報機器の活用力を高めることは、今後不可欠であり、そのためにも、教科を問わず、常に活用することで経験値を高めることが重要である。指導する教員のスキルを高めるための研修の充実も期待したい。	ICT機器を利用した授業研修の機会を充実させるとともに、教員全体のICT機器利用スキルのレベルアップを図るため、教員間の協力関係構築に努める。
3. 働く意欲と働く力をはくむ	インターンシップの充実	医療・看護系のインターンシップに加え大学等でのアカデミック・インターンシップへの生徒の参加率30%以上	医療・看護系のインターンシップに加え大学等でのアカデミック・インターンシップへの生徒の参加率10%以上	教育研究所によるインターンシップやキャリアセミナーに10名の参加があり、春休みもその機会がある。加えて医療関係も実際に患者さんには接することは出来なかったが病院に向いている仕事体験などに10名以上が参加出来た。また、提携大学との取組に20名以上が参加し、目標となる1年生の10%以上は達成できた。	概ね目標に近い参加率は達成できた。今後は、更に参加の重要性や意義の説明/周知を図り、告知・募集方法等を工夫するなどして、参加生徒の増加につなげたい。	卒業生の進学先の傾向から、看護医療系だけでなく、福祉関係や観光関係の学部を経験し、学ぶ取組も期待したい。	インターンシップやキャリアセミナー等の生徒への周知に努め、その魅力と有用性を伝える。
	キャリア教育の推進	将来の職業選択につながる大学での体験活動等を3回以上企画	将来の職業選択につながる大学での体験活動等を1回以上企画	3月の春休み休業中に連携大学に向き体験活動を実施した。1、2年生を対象に広く参加を募り、20名以上の参加者があった。	連携大学の協力で目標を実現できた。今後は更に対象大学を増やし、より多くの生徒に体験をさせ、その充実を図る。また、キャリア教育の充実により職業観を育み、職業体験への興味関心を高める。	企業での人材採用・育成等に関わる日頃の経験から、「何のために働くのか」という「働く目的」を考えさせる必要性を強く感じる。まさに、職業観の涵養は非常に重要であるので、今後学校に協力できることを探していきたいと考える。	連携大学の新規開拓に取り組み、生徒が参加可能な職業体験等の活動の機会の増加に努める。
	産業界との連携の推進	キャリア講演会、卒業生による講演会を計3回以上実施	キャリア講演会、卒業生による講演会を2回以上実施	第1学年においてキャリア講演会を3学期に実施した。今年度は1回の開催にとどまったが、次年度は卒業生による講演会も計画し、2回以上の開催を実現したい。	アンケート結果から、多くの生徒が仕事観を育む第一歩として真剣に考え、目的は果たせたようである。これで終わりではなく、その思いを今後にとどまらなければいけないことが重要であるので、継続した指導を工夫したい。	卒業生による講演の企画は、生徒が自らのロールモデルとしてイメージしやすいので、非常に良いアイデアである。カリキュラムの中にも、職業体験実習などを組み込まれており、そこに参加している生徒も非常に真面目に取り組んでいて、今後も取り組みを期待したい。	卒業生や地域の方々を講師として招き、生徒にとって身近な職業人による講演会を開催する。
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	コミュニティスクールの運営	学校運営協議会を4回以上開催し、その提言を学校運営に反映させる。	学校運営協議会を年間2回以上開催する。	本校は、今年度、学校運営協議会を設置し、コミュニティスクールとしてのスタートを切った。第1回学校運営協議会を7月に開催し、設定する令和4～6年度中期目標の内容について審議を行い、運営協議会委員からの意見も採り入れた中期目標を8月31日にHPに公開した。第2回学校運営協議会は2月に開催し、今年度の目標の達成状況や来年度の取組などについて、委員からの提案を得た。	学校の基本運営方針のもととなる中期目標の設定に、学校運営協議会に参画していただけたことは、「合議体として、一定の責任と権限を持って学校運営に参画する」という、学校運営協議会本来の役割を果たしていただくことができて感じている。しかしながら、学校をより地域に開かれたものにしていくためには、より一層学校運営に関する様々な意見、アイデア、提言等をいただく必要がある。その仕組み作りも含めて、制度の十分な活用には達していない現状である。	今年度もコロナ禍による制約が多く、取組を積極的に実施できなかったのも仕方なかった面がある。しかし、第2回協議会では、学校と協働で実施可能なアイデアがいくつか出されていたので、その実現に向けた取組を期待する。	学校運営協議会の仕組みを効果的に活用している事例を研修会等を通じて研究する。様々なバックグラウンドを持つ運営協議会委員の方々ならではの提言や意見をひききす協議会運営に努める。
	郷土の伝統、文化、自然等に関する学習の推進	「奈良TIME」の学習により、「奈良に対する理解が深まった」と感じる生徒の割合が90%以上	「奈良TIME」の学習成果を記録し、「奈良に対する理解が深まった」と感じる生徒の割合が80%以上	アンケートで「奈良に対する理解が深まった」と感じる生徒の割合が81.9%であり、目標値を超えた。	「奈良TIME探究」を単なる調べ学習にとどまらせるのではなく、探究のプロセスを踏まえた探究活動として生徒に取り組みさせることができた。	自分の家族・地域・国を愛することは、豊かな人生を送るための原点であり、今後一層、奈良・生駒について深く学習し、正しく理解し・知る取り組みを継続していただきたい。	地域で催される生徒向けのイベントや研修会を広く周知し、多くの生徒の参加を促す。探究した内容を校内にとどめず、校外コンクールへの応募を促すなど、地域・社会への発信に努める。
	グローバルマインドの育成	国際的に活躍できる、または、国際理解につながる学部・学科へ進学を希望する生徒40名以上	国際的に活躍できる、または、国際理解につながる学部・学科へ進学を希望する生徒20名以上	アンケートの結果では、国際系学部への進学を希望する、または、興味を持っている生徒は、1年で82名、2年で86名、3年で124名である。学年が進み、自己の進路をより具体的に考えるにつれて、希望する生徒が増えている。実際に国際関係に関わる学部へ合格を果たした3年生が、53名おり、本年度は目標値をかなり超えることができた。	コロナ禍以降、海外への渡航、海外からの受け入れとも、交流には強い逆風である。その中で、一定の興味・関心を維持できているのは、本校の3年間を通じた毎週の全校英単語テスト、ALTの協力によるモーニングスピーチ等の成果であると推測できる。今後も様々な機会を逃さず、異文化を受容し関心を高める態度の育成に努めたい。	今後も様々な面での国際化は避けられない。そのためにも、「内向き」にならず、海外に目を向けることは重要。その意味で、多くの生徒が国際系学部への関心を持っているのは素晴らしい。今後は、先進国だけでなく、発展途上の国々にも興味・関心を広げてもらいたい。そのような地域からの技能実習生を受け入れていることから、何らかの方法で、学校に協力できるのではと考えている。	生徒の可能性を広げるためにも、各授業で、海外事情への興味を持たせる指導に努め、さらに、地域の事業所の協力を得て、様々な文化的背景を持つ人達と触れあう機会の設定に努める。
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	望ましい生活習慣の確立	時間の有効活用や、計画的行動などを意識し、実行することを心がけている生徒が90%以上	時間の有効活用や、計画的行動などを意識し、実行することを心がけている生徒が80%以上	アンケートの結果より、日々遅刻しないことや時間を有効に活用しようとする生徒は95.7%であった。割合は高いが一部の生徒が遅刻を繰り返す面もあるため、引き続き時間の有効活用に対して能動的な行動を取れるよう指導していきたい。	遅刻者の多くが数分の遅れや電車1本の乗り遅れである。少し頑張れば遅刻を回避できるにも関わらず努力できない現状がある。引き続き校門指導などをおこない行動の改善を促していきたい。	多くの生徒が、高校生用手帳を上手に利用する等して、自ら時間管理を行えるよう取り組んでおり、遅刻する生徒も多くないと見受けられる。引き続き取組を継続してもらいたい。	時間を有効に活用することが、学習時間の増加や規則正しい食習慣・健康の増進につながることに啓発し、自律的な行動改善を促す。
	多様な生徒への支援	教育相談の取組と有効性に対し、肯定的評価をする生徒が90%以上	教育相談の取組と有効性に対し、肯定的評価をする生徒が80%以上	「教育相談への取組」に対するアンケートでの肯定的評価は71%に留まる一方、「3年生生徒対象の講習」に対する肯定的評価は86%と概ね評価が高いことから、有効な手立てを用意することで行動を起こす力を育むための土壌はできつつあると思われる。	教育相談の取組については、「教育相談だより」の内容検討や他の講立てなど、更なる周知が求められる。一方「3年生生徒対象の講習」については例年同様高評価であり、自己のストレスマネジメントに対する関心の高さが見受けられ、今後も生徒の変化を注視しながら継続することで意識高揚に努めたい。	昨今、教育相談の内容は、不登校、メンタルな課題に起因するものが大半となっている。また、ヤングケアラー等の新たな課題も浮かび上がっている。メンタルヘルスの改善には長期的な取組が必要であり、どのような支援が可能かを決定するにも、多くの困難な面がある。様々な取組を実施されていることは素晴らしいが、相談利用者の満足度なども今後調査しても良いのではないかと。	特別な支援・配慮を要する生徒は、個々が様々な事情を抱えているので、各個人の事情を詳細に把握し、最適な方向に導く指導に努める。スクールカウンセラーは非常に頻繁に利用されており、今後利用者の満足度も調査していきたい。
	「多様性を尊重し、共に生きていくための意思と実践力の育成	「いじめ」や「差別」に気づいたとき、指摘したり、問題意識を持てる生徒が95%以上	「いじめ」や「差別」に気づいたとき、指摘したり、問題意識を持てる生徒が85%以上	3年生に対する人権意識調査では、いじめや差別に気づいたとき、どうしますかという設問に対して、92.2%の生徒が、「注意する」「誰かに相談する」「されている人に声を掛ける」のいずれかを回答している。この結果から、本年度の目標は達成されたと考える。	現3年生は、新型コロナウイルスの感染状況から、本校の人権教育における特色の1つである、知的障がい者施設「かざぐるま」に学ぶ機会が得られなかった学年である。計画期間における具体的目標達成に向けて、人権教育の内容をより深化させるとともに、「かざぐるま」で学ぶ機会も設けていきたい。	「いじめ」「差別」はあってはならないものであり、生徒一人一人がそのような場面に出くわしたり、気づいた際の実践力・行動力を身に付けることを目的として取り組んでおり、非常に素晴らしい。保育園、幼稚園、知的障がい者施設等との協働にも取り組んでいて、心の温かい生徒が多く育っていると見受けられる。	今後も、地域の障がい者施設との交流に努め、多様な方々と共生していく態度の育成に努める。また、地域の幼稚園、保育園での一般生徒の訪問・交流を再開し、「温もりのあふれる生徒」の育成を図る。